

TOPICS 今号のトピックス

番組視聴・情報システムをリニューアル 放送ライブラリー事業の現況 理事・監事が決定

■ 放送ライブラリーの新視聴・情報システムが完成へ

視聴ホールを新システムに

2000年10月に導入した番組視聴システムは、数年前から老朽化によるトラブルが増加してきたため、2008年7月、放送局の技術担当者を委員とする専門部会を設置してリニューアルの検討に着手した。

新システムの開発は公募の結果、NECに決まり、昨年10月から開発を進めてきたが、このほど完成し、7月3日から運用を開始する運びとなった。

また、今回のリニューアルにあわせて放送のデジタル化に対応するため、9階展示フロアの「ライブTVウォール」と1階に設置しているシンボルモニュメントの変更工事も行なった。

新システムの特徴



(8階視聴ホール)のフルハイビジョン対応のワイドモニター

新システムの概要は次の通り。

①最新のHDDサーバーによるVODシステムを採用

- ・HDDサーバーによるVOD（ビデオ・オン・デマンド）システムを採用した。これにより同じ番組が複数のブースで視聴可能となった。
- ・HDDサーバーは、テレビ番組はH.264、ラジオ番組はMP3という効率的な圧縮方式を採用し、既存のコンテンツの他、毎年度増加するコンテンツも十分格納・配信が可能なシステムとした。

②利用者登録、番組検索、視聴を同一ブースで

- ・利用者登録、番組検索と共に「テレビ番組」「ラジオ番組」「テレビCM」「ラジオCM」「ニュース映画」など、全てのコンテンツを同じブースで視聴できる。
- ・ブース利用は90分～120分程度の時間貸し方式とした。利用可能時間は、混み具合など、状況を見て任意の時間を設定することが可能。
- ・検索や再生操作は、高齢者や子どもに配慮し、使いやすいタッチパネル方式を採用した。

③フルハイビジョン対応の16:9のワイドモニター

- ・モニターサイズは、1人・2人用27インチ、3人用32インチの液晶モニターで、全てフルハイビジョンの迫力ある映像とともに、検索結果を見やすく表示できるようにした。

④従来の再生操作に「早戻し」機能を追加

- ・再生操作は従来の「再生」「早送り」（倍速）「一時停止」に加え、「早戻し」機能をつけた。「早送り」「早戻し」は2倍～32倍速が可能。

利用の流れ

- ①受付で利用人数を伝え、指定されたブースナンバー札を受け取る。
- ②指定のブースに着座し、利用者登録を行なった後、番組検索、視聴開始。
- ③ブースナンバー札を受付に返却して退館。

利用者ブースでの主な操作

・利用者登録

「氏名」「年齢」「性別」「住まい」「職業」の入力

・番組検索

- ①「テレビ番組」「ラジオ番組」「テレビCM」「ラジオCM」「ニュース映画」の選択
- ②「おすすめ」「タイトル」「条件設定」からの検索（検索条件は複数条件設定可能）



タッチパネル式の検索画面（上）と検索結果一覧（下）

放送局での番組視聴に対応できる拡張性

保存番組を各社の番組制作者の育成、社内研修の利用に供するため、IP伝送による放送局内で遠隔視聴できるシステムを検討しており、リニューアル完了を受けて早期の導入を図る。

放送ライブラリー事業「収集・保存業務」「小中学生向け学習プログラム」「企画展等」の現況

・番組の収集・保存・公開業務の推進

平成22年度のテレビ保存番組の選定は20年度放送分、収集・保存は昨年度選定した19年度放送分を対象にそれぞれ推進する。また助成事業として、①JKA助成事業「地域文化に関する番組の収集、保存および公開」は、昨年度の11社90本に続き、22年度は民放地方局の165本を対象とする。②郵便事業株式会社の年賀寄附金配分事業「世界遺産関連番組の収集、保存、公開事業」は、TBSテレビ『世界遺産』シリーズなど計3社130本を対象に実施し、保存・公開番組の充実を図る。

ラジオ番組の収集・保存は、21・22年度の各賞受賞・参加番組や主要番組を対象とする。

・小中学生を対象とした学習プログラムの充実



『出前授業』と、『アナウンサー体験教室』は、放送文化基金と子どもゆめ基金の助成を得て実施し、子供達や教師の放送に対する興味と関心を高めるための学習プログラムを推進する。

『出前授業』はテレビ朝日のほか、今年度からTBSテレビ(写真・6/17実施)と日本テレビ(8/1午前・午後予定)の協力により内容と開催回数の充実を図る。また、『アナウンサー体験教室』はNHKとフジテレビに加え、ラジオ番組のDJ体験としてFM横浜から制作スタッフとパーソナリティーの派遣協力が決まった。

・企画展、セミナー、番組上映会などが好評

企画展は、「春の人気番組展」(4/9～5/15)とNHK大河ドラマ「龍馬伝」(5/18～26)、今年度の大型企画の第一弾「水戸黄門展～40年の歩みと新たな旅立ち」(5/29～7/19)等に、幅広い世代が鑑賞に訪れている。「放送人の会」との共催企画「第26回名作の舞台裏 清左衛門残日録」(4/17)には、出演した仲代達矢さんとかたせ梨乃さん、脚本の竹山洋さん、演出の菅野高至さんたち“藤沢ワールド”を愛した登壇者による軽妙なトークが展開された。

昨年度に続き「ザ・ベストテレビ」(NHKBS2で6月末放送)の関連企画として、センターがNHKと共催のシンポジウム(6/19・千代田放送会館)を開催するとともに「最新受賞ドキュメンタリー番組上映会」(7/3～19・放送ライブラリー)を開催、優れた“テレビ・ドキュメンタリー”を幅広く一般に紹介し、放送への関心と理解を深める場として、注目されている。

理事・監事が決定

5月と6月開催の平成22年度第1、2回評議員会、ならびに第2回理事会で平成22・23年度の理事・監事が次のとおり決定した。

なお、新年度から理事36名体制から31名体制に移行した。

[放送番組センター 理事・監事]

会 長	村上 光一(フジテレビジョン顧問)
副 会 長	今井 義典(日本放送協会副会長)
	半田 正夫(青山学院常務理事)
	山本 雅弘(毎日放送相談役最高顧問)
専務理事	工藤 俊一郎(日本民間放送連盟常務理事)
常務理事	松村 直央
理 事	石坂 敬一(日本レコード協会会長)
	石原 俊爾(TBSテレビ社長)※
	磯原 裕(ニッポン放送相談役)
	市川 森一(日本放送作家協会理事長)
	今井 通子(医学博士・登山家)
	大寺 廣幸(日本民間放送連盟事務局長)※
	加藤 衛(日本音楽著作権協会理事長)
	君和田 正夫(テレビ朝日会長)
	久保 伸太郎(日本テレビ放送網相談役)
	五藤 宏(実演家著作隣接権センター 運営委員会副委員長)
	小宮 邦安(テレビ神奈川特別顧問)
	菅谷 定彦(テレビ東京会長)
	菅谷 実(慶應義塾大学教授)
	遠山 敦子(新国立劇場運営財団理事長)
	中尾 幸男(全日本テレビ番組製作社連盟 理事長)※
	永澤 征治(長野朝日放送特別顧問)※
	永田 圭司(全日本シーエム放送連盟 理事長)※
	長沼 修(札幌ドーム社長)
	林 文子(横浜市長)
	日向 英実(日本放送協会専務理事)
	藤井 宏昭(森アーツセンター理事長)
	俣木 盾夫(日本広告業協会理事長)
	松尾 羊一(評論家)
	森永 公紀(日本放送協会関連事業局長)※
	渡邊 眞次(弁護士)
監 事	石黒 大山(東海テレビ放送会長)※
	溝口 明秀(日本放送協会理事)

※新任(50音順、敬称略)